

日本社会科教育学会

第 73 回全国研究大会（東京学芸大学・筑波大学共催）のご案内

2 次案内・オンライン開催

日本社会科教育学会会長・第 73 回大会実行委員長 大澤 克美

第 73 回全国研究大会を開催することとなりました。この間、コロナの拡大とそれに対する様々な対応、さらにはロシアのウクライナ侵攻や様々な国際的な紛争が起こり、日々、我々の生活と社会との関わりを考えざるを得ない状況が続いてきました。世の中が激変していく中で社会科として児童・生徒たちに何ができるのか、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

今回は、筑波大学と東京学芸大学の共催にてオンライン方式による開催となりました。ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

1. 大会主題 地域におけるグローバルな課題と社会科教育
2. 期 日 2023（令和 5）年 10 月 28 日（土）・29 日（日）
3. 会 場 オンラインによる開催（ビデオ会議システム Zoom）
4. 主 催 日本社会科教育学会 日本教育大学協会全国社会科部門

4. 日 程

第 1 日目 10 月 28 日（土）

8:30	9:00	12:00	13:30	16:00	16:15	17:00
受付	自由研究発表 I	昼食 評議員会	シンポジウム	休憩	総会	

第 2 日目 10 月 29 日（日）

8:30	9:00	12:00	13:00	15:30
受付	自由研究発表 II	昼食	課題研究発表	

●自由研究発表は、移動時間と報告者の資料準備のため、5 分ずつ間隔を空けて実施します。

今年度は、昨年度と発表時間が異なるためご注意ください。各分科会の発表順・発表時間は以下の通りです。休憩には次の発表準備も含まれます。

- ・司会者：分科会の運営及び進行などの説明 9:00～9:05
- ・発表(1)：9:05～9:35 + 休憩 5 分
- ・発表(2)：9:40～10:10 + 休憩 5 分
- ・発表(3)：10:15～10:45 + 休憩 5 分
- ・発表(4)：10:50～11:20 + 休憩 5 分
- ・発表(5)：11:25～11:55

第1日

2023(令和5)年10月28日(土)

自由研究発表 I

9:00~12:00

自由研究発表 I – 第1分科会

司会者 鳴門教育大学 伊藤 直之
近畿大学 戸井田克己

(1) 高校「地理総合」における宗教

上越教育大学 塚田 穂高

(2) 歴史的地図情報を活用した中学校「身近な地域の歴史」学習の実践

草津市立老上中学校・兵庫教育大学連合大学院 七里 広志

(3) 一貫地理教育カリキュラムにおける小学校社会科の単元開発

宮城教育大学 吉田 剛
宮城教育大学附属小学校 鹿内 隆世
宮城教育大学附属小学校 都築 和希

(4) 身近な地域への理解と愛情を深める社会科授業
ー小学校3年生における「道」の教材化を通してー

富山市立堀川小学校 政二 亮介

(5) 多面的・多角的な考察や深い理解を通して我が国の国土や歴史に対する愛情を涵養し、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることの大切さについての自覚を深める社会科教育の開発

富山県射水市立大門中学校 龍瀧 治宏

自由研究発表 I – 第2分科会

司会者 桜美林大学 田中 暁龍
立命館大学 角田 将士

(1) 小学校社会科におけるゲーミフィケーションを活用した歴史学習
ー当時の社会を体験的に学ぶためのボードゲームを中核としてー

愛知教育大学教職大学院 上田 彩葉

(2) 中学校社会科におけるアフリカ史学習の構想

ー学習者はコンゴにおける「サプール」の平和を求める主張をどのように捉えるのかー

兵庫教育大学連合大学院・糸魚川市立糸魚川中学校 佐藤 優一

(3) 中学校社会科・歴史的分野の学習と「ウェルビーイング」

筑波大学附属中学校 山形 友広

(4) 自我関与を促す高校世界史の教育内容開発

ー「天国と地獄のファンタジー」を題材としてー

佐賀県立佐賀東高等学校 堤 敏浩

自由研究発表Ⅰ－第3分科会

司会者 兵庫教育大学 吉水 裕也
敬愛大学 佐藤 孔美

- (1) 高等学校公民科「公共」における概念を手掛かりに考察する力を育成する授業開発
－「水俣病の問題」とプラトン『国家』篇（第一巻）を教材として－

北海道札幌南高等学校 佐藤 克宣

- (2) 中学校社会科公民教科書における「人権と日本国憲法」に関する記述の変遷（Ⅱ）
－教科書本文の計量テキスト分析による考察－

越谷市教育センター 中台 正弘

- (3) 原発処理水の海洋放出を取り上げた社会的論争問題学習の実践
－〈私〉の立場からどのように社会問題を問い直すのか－

お茶の水女子大学附属小学校 片山 元裕

- (4) 小学校社会科における哲学対話の実践研究
－教育学部生と小学生による共創－

信州大学 松島 恒熙
信州大学教育学部附属長野小学校 新井 雄太
信州大学教育学部教職大学院 大畑 健二

- (5) 人生設計を視座にした社会科・公民科カリキュラムの構築
－単元「結婚・婚姻」の開発－

福井大学 橋本 康弘
宮崎大学 吉村功太郎
国立教育政策研究所 磯山 恭子
秋田大学 加納 隆徳
岡山大学 桑原 敏典
亜細亜大学 三浦 朋子
東京学芸大学 渡部 竜也

自由研究発表Ⅰ－第4分科会

司会者 植草学園大学 梅澤 真一
北海道文化財保護協会 田山 修三

- (1) 社会的課題の解決に向けて選択・判断する小学校社会科授業の開発
－租税が果たす役割に着目して－

愛知教育大学 真島 聖子

- (2) 政治的視点を取り入れた小学校社会科産業学習の授業開発
－単元「これからの食料生産」を題材に－

熊本大学教職大学院 和田 夢衣

- (3) 金融経済リテラシーを育成する中学校社会科公民的分野の単元開発に関する研究
－「人」を中心に据えた経済学習に着目して－

信州大学 田村 徳至

(4) 生徒の租税意識をよりよく育てる中学校地理学習の授業開発 (2)

ータックスヘイブン問題を手がかりにしてー

熊本大学
熊本市立清水中学校
藤瀬 泰司
山下 大輝

(5) 「ふるさと納税」を題材とした公民的分野の授業開発

ー地方創生と金融教育の視点からー

お茶の水女子大学附属中学校
渡邊 智紀

自由研究発表 I ー第 5 分科会

司会者
鳴門教育大学
帝京大学
西村 公孝
鎌田 和宏

(1) グローバル化した社会を学習する小学校社会科学習

ー多文化共生センター設立に関する政治の働きを捉え、自分たちの関わり方を考えるー

福島大学附属小学校
板倉 正哉

(2) グローバル化した社会を学ぶ小学校社会科学習

ー我が国の歴史を広い視野から捉え、歴史を学ぶ意味を考える児童ー

埼玉県川口市立鳩ヶ谷小学校
堀 祥子

(3) 一人一台のタブレット端末を活用した小学校社会科

ー第 3 学年「店で働く人と仕事」の授業実践ー

香川県坂出市立金山小学校
河野 富男

(4) 社会科教育と個に応じた指導 (2)

桜花学園大学
松永 康史

(5) 小学校社会科における読解力の育成

ー読解方略スキルシートを用いた効果と検証ー

上越教育大学大学院
上越教育大学大学院
片桐 広太
榊原 範久

自由研究発表 I ー第 6 分科会

司会者
愛知東邦大学
東京学芸大学
白井 克尚
日高 智彦

(1) 児童が社会的な見方・考え方を働かせる歴史授業の提案

ー児童の認識形成の理論を参考にしてー

上越教育大学教職大学院・長岡市立栖吉小学校
村田 裕昭

(2) ゲストティーチャーと対等に協働する歴史家体験活動

ー学習者と歴史の専門家の異なる立場性を活かしてー

愛知教育大学教職大学院
中村 賢治

(3) 歴史総合実践の検討

ー教師の指導方略と単元開発過程に着目してー

愛知県立大府高等学校 野々山 新

(4) 地域教材の歴史学習への活用に関する研究 (その2)

ー千葉空襲を補助教材とした6年生歴史学習の実態調査ー

淑徳大学 伊原 浩昭

(5) 歴史の倫理的側面を理解する歴史授業の特質と課題

筑波大学附属坂戸高等学校 渡邊 和彦

自由研究発表 I ー第7分科会

司会者 山形大学 江間 史明
東北学院大学 坪田 益美

(1) 社会科における変革学習の意義

ー子どもと教師の変容を通じた包摂社会への変革可能性ー

筑波大学 早瀬 博典

(2) 「村の五年生」におけるコンフリクトの意義

ー正統的周辺参加からの考察ー

山口大学 田本 正一

(3) 移民の生徒たちにとって社会科授業が持つ意義

ー生徒自身による学びの意味づけからー

筑波大学大学院 金久保響子

(4) バーチャル技術による社会科教育の拡張

福岡こども短期大学 木下 祥一

自由研究発表 I ー第8分科会

司会者 成蹊大学 二井 正浩
北九州市立板櫃中学校 岩野 清美

(1) 社会科における「大災害と犯罪」の問題の取り扱いに関する一考察

東京学芸大学 宿谷 晃弘

(2) 移民の子どもにとっての歴史教育

ー中国系ニューカマー第二世代への聞き取りからー

筑波大学大学院 秦 加莉

(3) 日本の歴史教科書に「暴力」はいかに叙述されるか？

ー近代における戦争叙述の批判的談話分析ー

北海道教育大学札幌校 星 瑞希
広島大学教育研究推進員 小野 創太

- (4) 定時制高校の生徒は歴史学習にどのように向き合っているか
ー学習レリバンスに着目してー

筑波大学大学院 大西 拓人

- (5) 多面的性格を見据えた世界遺産教育の実践
ー文化財保護行政と歴史教育・地理教育の懸隔をつなぐー

新潟大学 竹田 和夫

自由研究発表 I ー第 9 分科会

司会者 三重大学名誉教授 山根 栄次
東京学芸大学 渡部 竜也

- (1) 社会科・公民科における「情報」の意義と課題
ー憲法・情報法・知的財産権法などの分析を中心にー

愛知教育大学 保立 雅紀

- (2) 中等公民教育における国際分野の取扱い
ー教員・生徒 3,000 人の知識・意見調査からー

埼玉大学 小貫 篤
東京都立田園調布高等学校 宮崎三喜男
練馬区立大泉中学校 石本 貞衡

- (3) 金融経済教育における臨床的課題解決に向けた協働的实践研究
ー地方における金融の在り方の追求を通してー

上越教育大学附属中学校 仙田 健一

- (4) 小中学生のグローバル・シティズンシップ意識への教員と家族の影響
ー潜在クラス分析を用いてー

筑波大学大学院 玄 在均

- (5) 高等学校公民科における心理学的内容の拡充の意義と課題
ー公民科科目「倫理」の教科書分析を手がかりとしてー

西九州大学 松井 克行

自由研究発表 I ー第 10 分科会

司会者 立命館大学 森田 真樹
大阪教育大学 峯 明秀

- (1) STEAM 教育における社会科の在り方に関する一考察
ー教材の問い直しを通してー

香川大学 鈴木 正行

- (2) 省察的实践による社会科若手教師の専門性発達の可能性と課題
ー指導体験記録の事例分析とインタビュー調査を中心にー

名古屋大学大学院 出井 伸宏

(3) 教育 DX 下の教員養成課程における情報通信機器の活用に関する一考察
 ー社会科教育法での実践事例ー

常磐会学園大学 井上 敏孝

(4) 初任教师教育者のセルフスタディ (Ⅱ) ー教員養成系私立大学での葛藤「指導案づくり・
 模擬授業を社会科教育法にいかに取り入れるか？」の場合ー

桃山学院教育大学 守谷 富士彦
 群馬大学 栗谷 好子
 三重大学 石川 照子
 京都教育大学 小栗 優貴
 広島大学 草原 和博

(5) 「飲料水，電気，ガスを供給する事業」に関する学習指導要領の改善
 ー「健康な生活」から「快適な生活」へー

総合初等教育研究所 北 俊夫
 羽生市教育委員会 細村 一彦
 川口市立前川東小学校 北川 智之
 深谷市立花園小学校 矢島 弘一
 羽生市教育委員会 小島 敏
 埼玉大学教育学部附属小学校 鈴木 一徳
 埼玉大学教育学部附属小学校 村知 直人
 久喜市立三箇小学校 小澤 晃司
 久喜市立栗橋南小学校 大澤 一輝

自由研究発表 I ー第 11 分科会

司会者 北海道教育大学札幌校 前田 輪音
 帝京大学 野口 剛

(1) 教師の実存が教材となるとき
 ートランスヴェスタイト当事者の教師による語りと実践ー

北海道森高等学校 菅野 真文

(2) 民主主義教育としての社会科はいかにこどもの学校参加に寄与できるか
 ー公共単元「ルールを考える組織が大切にしなければいけないこととは？」の場合ー

民間企業 奥村 尚
 千葉県立姉崎高等学校 山村 向志

(3) 生徒の「駆動 (driving)」を追跡する評価方法の検討
 ー歴史探究学習・問いの構築学習の場合ー

玉川大学 宮本 英征
 東京都立六本木高等学校 駒田 芳基

(4) 社会科歴史学習における主体的な学びの評価
 ー大正自由教育に着目した自学の重要性ー

武豊町立緑丘小学校 氏家 拓也

- (5) 歴史的エンパシーの認識論的考察
－資質・能力の統合的育成をめざして－

京都市立桃山中学校 弘田 真基

自由研究発表 I －第 12 分科会

司会者 仙台白百合女子大学 呂 光暁
龍谷大学 中本 和彦

- (1) 社会科教育における仮説実験授業の位置づけ
－1970 年代後半からの先行研究の検討－

西九州大学大学院 中尾 浩章

- (2) 海外における金融経済教育の実態
－日本証券業協会による調査結果から－

東洋大学 栗原 久

- (3) 教職地誌学における諸地域学習の工夫と効果

北翔大学短期大学部 菊地 達夫

- (4) 18 世紀東南アジア島嶼部東部の言語事情
－『華夷譯語』から見てみる－

日本学術振興会特別研究員 (PD)・公益財団法人東洋文庫 三王 昌代

- (5) 昭和 20 年代に愛知県教育文化研究所が取り組んだ地域教育計画
－研究協力校 (立田南部小学校・本宿小学校) の分析－

愛知県豊川市立御津南部小学校 行田 臣

昼食

12 : 00 ~ 13 : 30

評議員会

12 : 00 ~ 13 : 30

地域におけるグローバルな課題と社会科教育

〔趣旨〕

現在、様々な地球的課題が私たちの周辺で起こっています。ロシアのウクライナ侵攻に代表される紛争・平和の問題や地球温暖化の問題、それにともなう防災の課題、人権に関するニュースが日々我々の耳に入ってきます。こうしたグローバル課題は、実は遠い世界のものではなく、我々の地域の生活に直接関連してくる課題でもあります。日常、地域一学校で過ごしている我々は様々なグローバル課題を児童・生徒とともに、地域一学校でいかに考え、それらに対してどのように判断していくべきでしょうか。また社会科という一つの教科の中で、こうした課題に対してどのように対応することができるのでしょうか。今回のシンポジウムではそうした視点で、グローバル課題を、地域一学校、さらには社会科や社会認識にかかわる教科でどのように考えるかについて、登壇者の先生方のご提案をもとに検討してみたいと考えます。

コーディネーター 筑波大学 井田 仁康
 岡山大学 桑原 敏典

シンポジスト・テーマ

(1) 社会に開かれた市民的資質・能力を構築する地域学習の意義

ー「納得解を追究する」地域学習の提案ー

岡山理科大学 紙田 路子

(2) グローバルな視点でとらえた防災教育

ー高等学校の地理を事例としてー

名古屋学院大学 國原幸一朗

(3) グローバル市民科(総合的な学習の時間)における全校総合『しあわせ社会の実現』の実践

ー実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムー

茨城大学 小林 伸彦

(4) 観光を通してとらえる地域認識と平和教育への射程

東洋大学 須賀 忠芳

休憩

16:00～16:15

総会

16:15～17:00

第2日

2023(令和5)年10月29日(日)

自由研究発表Ⅱ

9:00～12:00

自由研究発表Ⅱ－第1分科会

司会者 横浜国立大学 鈴木 允
筑波大学 金 玟辰

- (1) 災害社会学の成果を踏まえた災害後の地域コミュニティの共同性の構築を目指した小学校社会科防災学習の単元構成の研究－第6学年単元「復興交流館モンドラゴンと梅林学区復興まちづくり協議会」を事例として－

広島市立高南小学校 原紺 政雄

- (2) 安全学の成果を踏まえた小学校社会科地域学習の開発
－第3学年単元「安全なまちを目指して」を事例として－

加東市立社小学校 吉川 修史

- (3) 中等地理教育における野外調査を取り入れた防災授業の傾向と展望
－システムティックレビュー－

千葉大学大学院 大川 遼馬

- (4) 熟議民主主義に基づいた社会科授業開発研究
－中学校地理的分野「地域の在り方」を事例として－

上越教育大学附属中学校 藤田 譲

- (5) 人口減少社会下の日本地誌学習の構想
－中国・四国地方の扱いを事例に－

文教大学 伊藤 裕康

自由研究発表Ⅱ－第2分科会

司会者 岩手大学 今野日出晴
東洋大学 須賀 忠芳

- (1) 「歴史の教訓」に対抗する力の育成をめざす類推批判学習の開発
－単元「ミュンヘン・アナロジーとベトナム戦争」を事例として－

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 植原 督詞

- (2) 宗教教育に資する歴史教育の役割
－近現代史授業開発を視野に入れて－

筑波大学大学院 直井 羽優

- (3) 地域における継承的アーカイブを活用した「次世代の平和教育」の構築(2)
－鹿児島県の特攻隊関連を事例として－

秋田大学 外池 智

(4) 学校資料を用いた戦争学習の試み

ー御真影奉戴・国民儀礼・神社参拝を題材にー

湘南白百合学園中学・高等学校

熊本 秀子

(5) 戦時下における学生の自由と葛藤を考える中学校歴史的分野の授業構想

ー箱根駅伝を題材としてー

筑波大学大学院

不二 黎人

自由研究発表Ⅱー第3分科会

司会者

広島大学

草原 和博

琉球大学

白尾 裕志

(1) 四日市公害をどう語り継ぐか

同志社大学・京都教育大学大学院連合教職実践研究科

森口 洋一

(2) 教材世界における児童の立場と当事者性の検討

ー5年生 福島のおコメと風評被害実践を通してー

筑波大学附属小学校

粕谷 昌良

(3) 中学校社会科公民的分野における世界遺産を活用した持続可能なまちづくりに関する教材開発

清和大学

小松 伸之

(4) 高等専門学校における主権者教育の実践

ー2030 SDGs カードゲームを使った初年度の取り組みと課題ー

福井工業高等専門学校

川畑 弥生

(5) オンライン交流を取り入れた地域の在り方の構想学習

ー「京都市都市計画局歩くまち京都推進室」との協働を事例としてー

京都市立桃山中学校

弘田 真基

京都市立西京高等学校附属中学校

上畑 直久

京都市立栗陵中学校

亀井 隆次

京都橘大学

水山 光春

自由研究発表Ⅱー第4分科会

司会者

帝京大学

中山 京子

兵庫大学

關 浩和

(1) 社会科教材研究における生成系AIの活用と課題

ー社会科授業の質的向上を目指した生成系AIの利用可能性ー

大阪教育大学

飯島 敏文

(2) 小学校社会科における外部人材を活用した主体的に学習に取り組む態度を高める授業デザイン

群馬大学教職大学院・富岡市立富岡小学校

根岸 愛美

群馬大学

宮崎 沙織

- (3) 小学校社会科における「見方・考え方を働かせる」単元デザインと子どもの知識変容
ー第5学年「分業」と「交換」を中核概念としてー

山形大学 江間 史明

- (4) 報道倫理を問い直す中学校公民単元の開発
ージャーナリズムの道徳的ジレンマを取り上げた論争問題学習ー

北海道教育大学釧路校 玉井 慎也
北海道浜中町立霧多布中学校 佐藤 健翔

- (5) 肢体不自由特別支援学校における「自然災害からくらしを守る」の授業開発
ー「社会的な問題と自分とのつながり」に気持ちを向けることを意識してー

筑波大学附属桐が丘特別支援学校 笹木昌太郎
筑波大学附属桐が丘特別支援学校 小林 博信

自由研究発表Ⅱー第5分科会

司会者 東洋大学 栗原 久
高千穂大学 鈴木 隆弘

- (1) 中学校における模擬投票を活用した主権者教育とその効果

岩手県立大学 市島 宗典

- (2) 中学校社会科公民分野における「対話」を重視した学習モデルの開発と検証
ーマインドマップ・ジグソー法・ワールドカフェの活用を通してー

知多市立八幡中学校 松久 一道
愛知東邦大学 白井 克尚
愛知教育大学 土屋 武志

- (3) 選挙を題材とした主権者教育での生成 AI 活用の検討

けんみん会議 原口 和徳

- (4) 「責任の段階的移行」モデルに基づく中学校社会科起業家教育の実践的研究
ー形式的アセスメントによる学習効果に着目してー

四日市市立富洲原中学校・兵庫教育大学連合大学院 松村 謙一

- (5) ICT を活用した中学校社会科の授業づくり

福島大学附属中学校 西内 千尋
福島大学附属中学校 高橋 卓史
福島大学附属中学校 川村 国央

自由研究発表Ⅱー第6分科会

司会者 宇都宮大学 溜池 善裕
昭和女子大学 升野 伸子

- (1) 子どもが教材を開発し、子ども同士の対話によって学びを深める社会科授業を目指して

東京学芸大学附属竹早小学校 恒川 徹

- (2) 主体的に学ぶ児童を育てる社会科学習の在り方
ー社会科における自己調整学習ー

船橋市立行田西小学校 柳 圭一

- (3) 少子高齢化社会に対応した教材分析と授業の実際
ー第3学年「江戸川区の移り変わり」を通してー

江戸川区立大杉第二小学校 柳沼 麻美

- (4) “新しい”教科書の使い方
ーよりよい授業づくりのためにー (1) 小学校編

信州大学 小山 茂喜
東京学芸大学 大澤 克美
多摩市立諏訪小学校 齋藤幸之介

- (5) “新しい”教科書の使い方
ーよりよい授業づくりのためにー (2) 中学校編

宮崎大学 吉村功太郎
兵庫教育大学 山内 敏男
練馬区立大泉中学校 石本 貞衡

自由研究発表Ⅱー第7分科会

司会者 鹿児島大学 溝口 和宏
島根大学 宇都宮明子

- (1) 東アジアと「東国」をつなぐ古代史授業の開発 ー上野三碑とその歴史的背景を事例にー

筑波大学大学院 高橋 誠聖

- (2) 歴史総合「現代的な諸課題の形成と展望」において、生徒はどのような主題を設定し、レポートにまとめたのか ーパブリックヒストリーとフィードバックの視点に注目してー

東京都立江戸川高等学校 須郷 一史

- (3) 日本古代史学習における「外来」と「在来」 ー「国風文化」を題材にしてー

筑波大学大学院 市村 悠大

- (4) エネルギーの安定供給の視点から地域の特色と課題を考える中学校社会科地理授業
ー中項目「日本の諸地域」における中部地方を事例としてー

広島修道大学 永田 成文
皇學館大学 萩原 浩司
津田学園中学校 小林 宗央

- (5) 「私たちが生きる現代社会と文化の特色」の指導の工夫
ー主権者として主体的に課題を解決しようとする生徒の育成Ⅴー

江東区立亀戸中学校 仲村 秀樹
荒川区立第九中学校 一勿めぐみ
中野区立中野第二中学校 古田 一博
中央区立銀座中学校 種藤 博

自由研究発表Ⅱ－第8分科会

司会者 早稲田大学 池 俊介
東京学芸大学名誉教授 坂井 俊樹

(1) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実はどうあるべきか

－単元を見通す学習問題と本気の学習問題の追究による個性的な理解－

関東学院大学 西川 健二
横浜市立幸ヶ谷小学校 宗像 北斗
横浜市立西富岡小学校 金井 伸一
横浜市立西富岡小学校 比嘉 将来

(2) 「総合的な探究の時間」と ESD

－民俗芸能の調査・研究を通じて－

八戸工業大学第二高等学校・附属中学校 熊谷 隆次

(3) 生活科における地図活用の改善と社会科との接続

玉川大学 小谷恵津子

(4) 中学校社会科における地歴並行学習の歴史的展開とその批判

－中等社会科における「総合（統合・融合）性」をめぐる論争の系譜－

東京都立府中高等学校 大木 匡尚

自由研究発表Ⅱ－第9分科会

司会者 広島大学 永田 忠道
信州大学 松本 康

(1) 社会科における外国にルーツをもつ子どもの横断的研究のために

－事例としての中国系移民第2世代－

千代田区立九段中等教育学校 吉原 大貴

(2) 小学校社会科「区の様子」と総合的な学習の時間の連携

－オンライン交流学習のカリキュラム開発を通して－

東京都世田谷区立武蔵丘小学校 松本 武

(3) 高校社会系教科教育における高大産コラボ授業の取り組み

－産学連携学習モデル提示に向けての一試論－

専修大学松戸高等学校 泉 貴久

(4) 質問紙調査から見る中学1年生の社会科学習観

明星大学通信制大学院・相模原市立大野北中学校 宇佐美 健

(5) 高校3年生の参院選の投票行動と政党イメージ

上宮高等学校 田中 智和

自由研究発表Ⅱ－第10分科会

司会者 筑波大学 伊藤 純郎
玉川大学 梅田比奈子

- (1) 歴史総合の「近代化と私たち」「国際秩序の変化や大衆化と私たち」における問いの設定とその評価

立教新座中学校・高等学校 荒井 雅子

- (2) 異なる歴史認識に対する寛容的な思考態度の育成
－沖縄「平和の礎」を題材とした中学校社会科歴史的分野の授業開発を通じて－
新潟大学大学院・新潟市立高志中等教育学校 早福 史

- (3) 価値判断力や意思決定力を育成する社会科授業の開発
－5年生「日本の主食は小麦か米か」の実践を通して－

植草学園大学 梅澤 真一

- (4) 小学校社会科での「真正の評価」論に基づくパフォーマンス課題の設定に関する考察
－小学校第3学年「農家の仕事」を事例として－

愛知県みよし市立三吉小学校 森田幸一郎

- (5) 日本の技術を生かした「ものづくり」に関するカリキュラム開発
－手作業で作るキューピー人形－

立正大学 石橋 昌雄
東京都板橋区立成増ヶ丘小学校 西谷 秀幸
東京都小金井市立小金井第一小学校 丸野 陽子
東京都葛飾区立東金町小学校 成田香穂里
東京都板橋区立板橋第十小学校 和田いずみ

自由研究発表Ⅱ－第11分科会

司会者 上越教育大学 茨木 智志
千葉大学 戸田 善治

- (1) 移行期正義から見る韓国の過去事清算
－教育課程・歴史教科書の分析－

筑波大学 國分 麻里

- (2) 戦後日本における中学校社会科公民的分野の「信教の自由」をめぐる教科書記述の変遷
一橋大学大学院 原田 雄斗

- (3) 市民性を育成する日韓比較歴史教育理論の現在の射程
－2010年代の『歴史教育』の分析を事例にして－

兵庫教育大学 福田 喜彦

- (4) 英国における考古学教材を活用した歴史教育カリキュラム
－ヨーク実験考古学研究センターの取り組みを事例として－

愛知東邦大学 白井 克尚
伊勢崎市立あずま中学校 小林 大悟

自由研究発表Ⅱ－第12分科会

司会者 福井大学 橋本 康弘
上越教育大学 志村 喬

(1) 公共圏と主権者教育

上越教育大学 中平 一義

(2) 教材論の違いに着目した有田・長岡論争の再検討 －第1学年の単元「給食室」の実践をめぐって－

鹿児島大学 大野木俊文

(3) 地理的な見方・考え方に対する日独地理教育比較 －システム思考とデザイン思考を射程に含めて－

静岡大学 山本 隆太

(4) 米軍占領下の奄美における社会科成立史研究 －米軍占領下の奄美における社会科成立過程を通して見る教育制度・教科書について－

宇検村立田検小学校 吉元 輝幸

(5) 新唯物論を手がかりとした人間中心主義社会科教育論の再考 －全き市民を育成する社会科から驚きと魅惑の社会科へ－

埼玉学園大学 堀田 諭

昼食

12:00～13:00

I. 社会科の探究的な学習における「問い」の役割

〔趣旨〕

近年、教育の動向の中で主潮流となった「探究」過程を社会科における児童・生徒の「問い」の意味から考えてみたいと思います。社会科における「探究」は「社会的事象の見方・考え方」をベースに「課題」をどのように設定するかに関連すると考えられますが、そこに児童・生徒の「問い」が大きく関わってきます。また、そこには学習の個別化、体験や経験をどのように社会科で生かすのかという古くて新しい視点も含まれます。以上のことを前提にあらためて「問い」を検討したいと思います。

コーディネーター 信州大学 篠崎 正典
茨城大学 杉本 憲子

報告

(1) 小学校社会科における学習問題への関心と探究的な学び

埼玉県所沢市立山口小学校 木下 智実

(2) 中学校社会科における探究的な学習の在り方と授業実践

ーSDGsを課題解決学習に生かす実践を例にー

茨城県かすみがうら市立下稲吉中学校 岡野 英輝

(3) 小学校の「学習問題」と中学校の「(学習)課題」の比較・考察

大妻女子大学 澤井 陽介

II. 社会科におけるICT活用の新局面

〔趣旨〕

学校現場のICT環境はコロナ禍を背景に急激に整備され整ってきました。しかしながら機材は整備されたものの、それらを社会科教育の中で有効に活用する方途については未だ試行途上であることも事実です。現行の学習指導要領では、ICTを最大限に活用して「個別最適な学び」と「協同的な学び」の一体的な充実を図ることにより、児童生徒の資質・能力をよりよく育成することが目指されています。ICTを活用した授業をどのように開発・実践すれば、児童生徒の資質・能力をよりよく育成できるのでしょうか。学習eポータルやビッグデータ、ChatGPTなど、学校教育を取り巻くICT環境が刻々と変化するなか、社会科におけるICT利活用のこれまでとこれからについてあらためて考えてみたいと思います。

コーディネーター 東京学芸大学 川崎 誠司
熊本大学 藤瀬 泰司
指定討論者 (株)NTT ExC パートナー 鈴木淳一郎

報告

(1) ICTを活用した小学校社会科授業実践

ー学習者用デジタル教科書、生成AIの活用を通してー

茨城県教育庁(元つくば市立学園の森義務教育学校) 大山 喜裕

(2) 社会科学習における対話や議論はICT活用によりいかにして促進することが可能か

ー社会をつくる主要な手立てとしてのフル活用をー

飯塚市教育委員会 柴田 康弘

(3) ICT の利活用のための教師の主体的な専門性の向上

守山市立速野小学校 金田 泰秀

Ⅲ. 地域との連携・協働を通じた社会科授業の創造

〔趣旨〕

社会科における地域との連携については、これまでも様々な議論が行われてきました。近年は地域を社会科に持ち込むだけでなく、地域に児童・生徒が積極的に関わっていく社会参画・地域連携・協働の形で地域と社会科との連携が図られています。一方で、児童生徒が地域と関わる生活経験は、様々な社会的背景の中でますます希薄化したり、質的な変容が生じたりしています。児童生徒が地域のことを知り、地域の課題に気付けるような社会科授業をどのように展開するかが、これまで以上に問われているように思われます。こうした状況を踏まえ、地域との連携・協働を通じた社会科授業の可能性と課題を共有し、地域との連携を社会科でどのように考えていくのか、あらためて検討したいと考えます。

コーディネーター	横浜国立大学	鈴木 允
	茨城大学	村山 朝子
コメンテーター	開智国際大学	竹内 裕一

報告

(1) 変容する地域社会を持続可能性の観点から考察する社会科の授業実践

ー地域の観光資源を生かした学習を事例としてー

成蹊小学校 内川 健

(2) 学校と地域社会をつなぐ地域教材の開発と試行

小美玉市教育委員会	三澤 秀生
茨城町立長岡小学校	柳田 咲耶
茨城大学	村山 朝子

(3) 外部連携を通して地域社会の創り手の育成を目指す社会科授業づくり

ー外部人材を活用するための教師の調整をふまえてー

愛媛大学 井上 昌善

Ⅳ. 各教科・分野・科目等相互の関連を図った社会科の学習指導をどのようにするか

〔趣旨〕

児童・生徒には、急速に変化する社会に積極的に向き合い、他者と協働して社会に見られる課題を解決したり、様々な情報を精査し再構成することで新たな価値を創造したりすることが求められています。このような中、社会科では、一時間の授業での学習に留まらず、各教科・分野・科目等相互の関連を図り、見通しをもった単元での学習を充実させることが必要とされています。公民としての資質・能力を児童・生徒に確実に育む、各教科・分野・科目等相互の関連を図った社会科の学習指導のあり方について、具体的な事例を踏まえ、議論を深めていきたいと思います。

コーディネーター	国立教育政策研究所	磯山 恭子
	明治学院大学	佐藤 公
コメンテーター	宇都宮大学	熊田 禎介

報告

(1) 小学校社会科における各教科・学年等相互の関連

ーカリキュラム・マネジメントの取組を通じてー

江東区立第二辰巳小学校 新貝 朗

(2) 中学校社会科における各教科・分野等相互の関連

ー紛争の視点から歴史的分野と公民的分野をつなぐ実践を通じてー

袋井市立袋井南中学校 高橋 壮臣

(3) 高等学校公民科における各教科・科目等相互の関連

ー公共における「見方・考え方」を深める実践を通じてー

茨城県立並木中等教育学校 石本由布子

V. 教職大学院で社会科教師をどう育てるか

〔趣旨〕

教職大学院は、昨今の政策における拡大方針により、ほぼ全ての都道府県で設置されています。特にその中で、従来の学校経営・管理領域や児童生徒指導領域に加え、教科指導領域の拡充がみられ、教科指導のリーダー的役割を担う教師の育成に取り組むコース等を新設した大学院もあります。これまでの修士課程で行ってきた社会科教師の育成に対して、教職大学院ではどのように社会科教師を育成していくのか。本課題研究では、教職大学院で取り組む社会科教師の育成に焦点化し、具体的な事例を踏まえ、議論を深めていきます。

コーディネーター	埼玉大学	桐谷 正信
	群馬大学	宮崎 沙織
コメンテーター	立命館大学	森田 真樹

報告

(1) 教職大学院における社会科教員養成の可能性と課題

ー「理論と実践の往還」の観点からー

鳴門教育大学 井上 奈穂

(2) 教員養成者のセルフスタディとしての教職大学院における社会科・地理教育実践

上越教育大学 志村 喬

(3) 教職大学院で社会科教師としての「省察」をどのように位置づけるのか

ーレリバンズと実践習慣の形成を目指してー

静岡大学 村井 大介

大会参加要項

- (1) 自由研究発表は、Zoom を用いて行います。発表時間は、発表 20 分、質疑応答 10 分の計 30 分です。発表と発表の間に 5 分のインターバルを取ります。会場を移動される場合は、その間をお願いします。
- (2) 自由研究発表も開始時刻の 30 分前には入室が可能になるので、発表する方は通信状況の確認や画面共有の試行などを行うことができます。また、司会者、発表者の方はできれば 10 分ほど前には入室し、必要に応じて進行などの打ち合わせなどを行ってください。
- (3) 参加者のみが入ることができる大会 HP の PW などは 10 月 26 日（木）をめぐに、参加の事前登録をしたメールアドレスにお送りします。なお、本メールは大会事務局よりお送りします。
- (4) 当日の資料は、Web 上に掲載いたします。受付は本学会 HP の【大会発表資料アップロードフォーム】にて行う予定です。資料の容量は 5MB までとして、PDF にして、9 月 28 日（木）～10 月 15 日（日）までにアップロードしてください。これら当日の資料は、参加者登録をした者のみ入ることができる Web 上にアップロードをして、2 週間の資料閲覧を可能にします。
- (5) 発表論文集が 10 月 26 日（木）までに届かない場合は大会事務局までお問い合わせください。
- (6) お問い合わせ先
日本社会科教育学会第 73 回全国研究大会事務局
E-mail : jass73gakugei.tsukuba@gmail.com
※お問い合わせは、メールにてお願いいたします。